

---

# ドラゴンボールGT すばぁーきんぐ！

D a i s y K a t s u r a

---

## 注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

### 【小説名】

ドラゴンボールGT すぷぁーきんぐ！

### 【Nコード】

N1159B

### 【作者名】

Daisy Katsura

### 【あらすじ】

GTが最終回を迎えた後の物語。パンが超サイヤ人になったり、ベビーが復活したりと、ハチャメチャバトルを繰り広げる宇宙を股に掛けたストーリー！。

ドラゴンボールGT すぷぁーきんぐ！

## プロローグ

昔々、7つ揃えると神龍が現れ、願いを叶えてくれる不思議なボール、ドラゴンボールがあつた。

これは、そんなボールを求めて冒険を繰り広げる、GT以降の物語である。

ドラゴンボールGT すばぁーきんぐ!

第01話：超サイヤ人だ孫 パン（前書き）

「まじぱん」ではなく「そんぱん」です。

ドラゴンボールGT すぱぁーきんぐ！

## 第01話：超サイヤ人だ孫 パン

「あつたあああ！」

ドラゴンボールを見付けてそう叫んだのは、地球のドラゴンボールで、元の姿に戻った孫<sup>そん</sup> 悟空だ。

「これで7つ全部揃ったね」

そう言ったのは、オレンジのバンダナに赤い半袖のシャツ、白い長ズボンに青いリュック、腰に鎖を付けた孫 悟空の孫のパンである。

そのパンのリュックから、「ギルルル！ 此処危険！」と飛び出してきたのは、ドラゴンボールレーダー搭載のロボット、ギルである。

「どうしたの、ギル？」

パンはそのギルに訊ねる。

「危険、凄いの来る！」

そう言って、ギルは逃げて行ってしまった。

そんなギルを見て、首を傾げる悟空とパン。

このときはまだ、彼らに不幸が訪れるなど、知る由もなかった…。

ヒューーーーン！ と、音を立てて猛スピードで空中を飛んで

いるのは、もの凄く強そうな体型に金髪の男。

その男は、「カカロットオー！」と叫んで悟空達のいる岩場へと向かって行った。

「お祖父ちゃん！」

と、もの凄い気を感じたパン。悟空もまた、パン同様にその気を

感じていた。

「パンっ、ドラゴンボール持って先に帰っててくれ!」

悟空はそう言っつて、その気の方へ飛んでいく。

ヒュウーーン!

その音と共に、悟空と金髪の男が擦れ違つ。

(アイツか!?)

悟空は急停止。それに合わせて、金髪の男も急停止をした。

「見付けたぞカカロット」

金髪の男はそう言っつて、猛スピードで悟空に襲い掛かった。

「うわっ?」

悟空は迫り来る男を素早く避けるところ言っつた。

「オメエなにもんだ!? 少なくとも、良い奴じゃ無さそうだな!」

金髪の男はふんつと鼻を鳴らし、

「お前に教える筋合いなど無い。

お前は此処で死ぬんだからな」

「オラまだ死ぬ訳にはいかねえ!」

悟空はそう言い返しながら、気を最大までに高めた。

「ほお、オレとやるのか。良い度胸だが、その強さではオレには勝

てんぞ?」

「オメエ、気が探れんのか」

「容易い事だ」

金髪はそう言っつと、悟空の前から一瞬消え、後に回り込んだ。

(速い!)

悟空が後ろを振り返ると、金髪の拳が飛んで来た。

「うえああ!」

と悟空は猛スピードで地上へ落下した。

(凄えパワーだ! やっぱこれしかねえ!)

悟空は地面ギリギリの所で止まると、超サイヤ人4になり、金髪の背後に瞬間移動した。

しかし金髪、背後にいるのに気付くと、右肘パンチを繰り出した。

が、超4悟空は片手でそれを受け止めた。  
「ん？」

悟空の容姿の変貌振りに戸惑う金髪。  
「やめとけ。今のオメエじゃ、オレには勝てない」  
悟空はそう言って気合砲で金髪を吹き飛ばした……つもりだった。

「無駄だ！」  
と金髪は超4悟空にかかと落とし。超4悟空は落下、地面に墜落すると、元に戻ってしまった。

「どうした？」  
いつの間にか降りて来た金髪は悟空にそう言った。  
「くっ！」

あまりの強さに言葉が出ない悟空。  
「もう終わりか？ さっきの赤いサルになって掛かって来い！」  
金髪はそう言うが、今の悟空にそれになる力は残されていない。

「波っ！」  
突然、金髪に光線が飛んできた。  
「ふんっ！」

金髪は光線を受け止め、「今、楽にしてやる！」と片手でオメガブラスターを、光線を放った主に投げつけた。

「きゃあああ！」  
光線を放った主は、オメガブラスターをまともに受けると、悲鳴をあげて墜落した。

「オメエ、ブロリーか!？」  
その問いにブロリーは、「覚えていたか」と悟空の腹を踏みつけた。

「うえあああ！」  
悟空は激痛に悲鳴をあげた。  
道理で、超4悟空でも勝てない訳だ。  
にしても、何故ブロリーがいるのか？

その答えは1年前にある。

1年前、悟空は集めたドラゴンボールで、「もっと強え奴と闘え  
てえ」そう願った。

その時ブロリーが強くなって蘇ったのだ。

悟空は今、そのブロリーに殺られようとしている。

「ツインエネルギーボール！」

二つの光弾がブロリー目掛けて飛んできた。

その光弾は、ブロリーに直撃したが、全く効いていなかった。

「まだ生きていたか」

ブロリーはそう言って、光弾を飛ばして来た主の下へ飛んで行っ  
た。

「逃げろっ、パン！」

悟空はそう叫ぶが、パンの耳には届いていなかった。

「餓鬼か・・・」

ブロリーはそう呟き、パンの腹に拳を一撃喰らわせた。

「うっ！」

口から血を吐いて怯むパン。

更にブロリーはフルパワーエネルギー波を発射。

近距離で技を喰らったパンは、猛スピードで吹き飛んだ。

「今、楽にしてやる！」

とオメガブラスターをパンに投げつけた。

放たれたオメガブラスターは、猛スピードでパンを追い掛けると、  
彼女に大ヒット。パンは地面に墜落した。

おかげで、服やズボンが破け、全身ボロボロである。当然、頭の  
バンダナなど既に無い。

「この程度で、私は殺られないんだから！」

とパンは残った力で起き上がると、ブロリーに襲い掛かる。

しかしブロリー、全く効いていない様子。

怒ったパンはラッシュ格闘をしたが、怯みさえしないブロリーに、  
弾き飛ばされてしまった。

隙を付いたブロリーはフルパワーエネルギー波をパンに発射。

(ゴメンね、お祖父ちゃん。……パパ、ママ、悟天叔父さんにトランクス。そしてサタンお祖父ちゃん。バイバイ、みんな)

迫り来るエネルギー波に、死を覚悟したパンは涙を流した。

その時悟空は瞬間移動をし、パンの盾となつてエネルギー波を全身で受け止めた。

ドーン！ 悟空は爆発し、彼の気諸共完全に消滅した。

「お祖父ちゃん!？」

一瞬の出来事に、頭に血が上るパン。

体勢を整えて、ブロリーの方を向くパン。

「許さない……」

パンの言葉にブロリーは、

「何だ？」

「よくもつ、よくもお祖父ちゃんを！」

悟空の死に怒り狂ったパンは、髪と眉毛が黒から黄色に変わり、更に髪の毛が逆立つ。その髪型は、超悟空のそれと同じである。

つまり…… 彼女の中に眠っているサイヤ人のパワーが目覚め、彼女は超サイヤ人へと変身したのである。

これまで、女性サイヤ人は超化しないと思われていたが、遂にパンがその常識を根本的に覆くつがえした。

果たして、その力はどの程度の物なのか？

ブロリーは倒せるのであろうか？

地球の運命は、お前に掛かっているぞ！

T o b e c o n t i n u e d . . .

第01話：超サイヤ人だ孫 パン（後書き）

ハッキリ言って、Sparklingに悟空は必要ありません。  
パンが主役なんですからね。

ドラゴンボールGT すぱぁーきんぐ！

## 第02話：下僕になるブロリー

自分の姿、体の底から満ち満ちてくるパワーに、パンは驚いて戸惑っていた。

ブロリーはそんなパンに、「生意気な小猿目！」と突進をして来た。

ズシンツ！　ブロリーの巨体が、パンに激突。

しかしパンは、びくともしない。それどころか、パンの体を取り巻く金色のオーラが、ブロリーを弾き飛ばした。

「何だこのパワーは!？」

と驚きと共に焦りを見せるブロリー。

「あなたはそう簡単には死なせない。お祖父ちゃんの受けた痛み、たっぷり味わって貰うんだから!」

そう言って超パンは、ブロリーに襲い掛かる。

パンチパンチのラッシュ攻撃に、キックの連続技が炸裂。ブロリーはパンの攻撃に圧倒され、あっと言う間にボロボロになった。

「はあ……はあ……はあ」と息を切らすブロリー。

「もう許さんぞ!」

怒ったブロリーはオメガブラスターをパンに投げつけた。

しかし今のパンに、そんな小細工は通用しなかった。

「ブロリーとか言ったわね。今の技、そっくりそのまま返してあげるわ!」

パンはそう言うと、右手に気弾を作り出した。

その気弾は、先程ブロリーが投げたものと同じで、パンはそれを投げようとしている。

「今、楽にしてあげるわ!」

そう言ってオメガブラスター擬もじもじを投げるパン。

間一髪、ブロリーはオメガブラスター擬を避けた。

だがそれはフェイク!　ブロリーがそれに気を取られている間に、

パンは彼の後ろに回っていた。

それに気付いたブロリーは後ろを振り返った。その先には、エネルギー弾を構えたパンがいる。

「これで死んだら許さないから！」

そう言つて、エネルギー弾を放つパン。エネルギー弾はブロリーに当たり、彼を怯ませた。

「まだよ！」

そう言つてパン、両手にエネルギー弾を作り、ブロリーにぶつける。

「どわあ！」

ブロリーは落下、地面に墜落してしまった。

そんなブロリーに対して、パンはかめはめ波を撃つ体制に入った。

「思春期少女の怒りを思い知れ！ かめはめ波ーっ！」

パンはブロリー目掛けて、超かめはめ波を撃ち込んだ。

その光線は瞬く間にブロリーに迫った。

「くおんなもので！」

ブロリーは両手で光線を受け止めた。

「しぶといわね！」

パンは更に気をあげ、それを光線に注ぎ込んだ。

「どわあ！」

限界を超えたブロリーは光線をまともに喰らってしまった。

ブロリーを中心に、辺りには巨大なクレータが出来上がる。

「ちよつとあんだ！ ちゃんと生きてるでしょうね！？」

とゆっくり降りて来るパン。

だがブロリーの返事は無い。

パンはブロリーの気を探り、その気を感じる場所に向かう。

ブロリーは岩の陰に隠れていた。

「この俺が、あんな餓鬼に！」

と怒るブロリー。

そんなブロリーを見付けたパンは、

「みーつけた」

するとブロリー、慌てて逃げ出した。

が、パンがそれを追い掛けた。

その速度はかなり速く、直ぐに追い付いてしまった。

「もう逃がさないわよ!」

とパンはブロリー叩き付けた。

ブロリーは落下し、地面に墜落した。

そんな惨めなブロリーの下に、パンはゆっくり降りて来る。

「そろそろトドメよ」

そう言っつて、超かめはめ波を撃つ体制に入った。そんな近距離で撃つたら、流石のブロリーも生きてはいられまい。

「待っつてくれ! 俺が悪かった! 謝る! 何でも言う事聞く! だから許してくれ!」

ブロリーのその下僕化宣言に、パンはつい手を降ろした。

「反省してんの?」

「してる! いやっ、してます!」

その言葉に嘘は無いと信じたパンは、気を下げて元に戻った。

「じゃあブロリー」

「何でしよう?」

「私の回りを3回回ってワンと泣いて頂戴」ちやうだい

ブロリーは起き上がると、パンに言われた通りにした。

「偉いわブロリー!」

パンはブロリーの頭を撫でた。まるで、犬の様だ……。

こうしてパンは、ブロリーを下僕にし、あのベビーの様にこき使うのであった。

ドラゴンボールGT すぱぁーきんぐ!

第02話・下僕になるフロリー（後書き）

何で下僕？

### 第03話：パンにも生えた！？サイヤ人の尻尾

パオズ山の竹藪の中にひっそりと建つ一件の小さな家。パンとその家族は、仲良くそこで暮らしている。そんないつも通りの生活、だった。あの日が来るまでは……。

その日の朝方、強い日差しによって目が覚めたパンは、重いまぶたを擦りながら、ベッドから降りた。

なんかいつもと違う。

そう感じるのは気のせいだろうか？

何か違和感を感じながらも、パンは一階降りて行った。

「パパおはよう」

と、父・悟飯に挨拶をし、洗面所に向かうパン。

そのパンの後ろ姿を見た悟飯は驚いた。

な、な、なあと、パンのお尻にサイヤ人の尻尾が生えているでは無いかあ！

「おいパン、それ何だ？」

悟飯はパンのお尻に生えた尻尾を指差した。

「何よこれー！？」

自分のお尻に生えた尻尾を見て驚くパン。自分でも何が何だか解らない様だ。

「生えてしまったものはしょうがない」

悟飯そう言って、朝の新聞を読み始めた。悟飯酷い。

自分の娘の一大事に、新聞なんか読んでて良いのか！？

「そうだね」

パンも同じ意見だ。

「なあパン。これ出てみないか？」

悟飯はそう言って、新聞に載った天下一武道会の紙面をパンに見せた。

「出たい！」

パンはそう言った。

こう見えても、パンは意外と闘い好き。流石、悟空の孫である。

「よし！そうと決まれば、大会の日まで修行だ。父ちゃんが稽古付けてやる」

こうして、悟飯の特訓の下、パンは天下一武道会に参加する事となった。

大会当日、悟飯、ビーデル、パンは、南の小島にある会場へやって来た。

「後5分で登録締め切りまーす！」と会場スタッフの人。

そこへパン、「登録しまーす！」と名前を登録した。

そしてパンは、この後に開かれる予選会に出場して勝ち進み、初戦も経て、遂には決勝戦に進出した。

「それではっ、選手の入場です！」

アナウンサーのアナウンスと共に、パンが舞台上がる。

そしてそれを遠くで見つめる、何者かの怪しい陰。

一体、何者なのか？

こいつの目的は何なのか？

ドラゴンボールGT すぱぁーきんぐ!

第03話：パンにも生えた！？サイヤ人の尻尾（後書き）

尻尾は、この先必要になるので、今生やしました。

## 第04話：生きていたベビー！

舞台上に上ったパン。対するは……。

「対するは…… あれ、対戦相手は何処ですか？」

アナウンサーはいつまで経っても現れない対戦相手を捜したが、それらしき人物は何処にもいない。

このままパンの不戦勝で終わってしまうのか？

そう思われた時、パン並みの大きさの邪悪な気が発生し、会場が一気に爆発、炎上した。

それに紛れて、観客達は皆逃げ出し始める。

(何かしら、この気!?)

そう思ったのはパンである。また悟飯も、同じ事を思っていた。

ご飯はパンの所へ飛んで来ると、彼女にこう言った。

「とても大きな気が近くにある！」

その言葉にパンは、その気を感じる炎の方に目をやる。

すると炎の中から、銀色頭にトンガリ、眼球と胴体が青い、あの極悪非道の生物が現れた。

「何であんたが!？」

しかしそいつはパンの言葉を無視して襲い掛かって来た。

悟飯は超サイヤ人になり奴に立ち向かう。

「生きていたのか、ベビー！」

「ほお、正気に戻ったのか。まあ良い。再びシモベにしてやる。」

ベビーはそう言って悟飯に飛び掛る。

が、悟飯は避けて反撃。ベビーは空中に吹き飛ばされた。

「以前より強くなっているな。流石サイヤ人、と言った所か」

そう言うベビーの下に、「ベビー様！」と超悟天がやってくる。

なんとベビーは、悟天を下僕にしていたのだ。

「悟天、悟飯の動きを封じるんだ」

その言葉に悟天は返事をし、悟飯に襲い掛かった。

「やめろっ、悟天！」

迫り来る悟天に悟飯はそう言うが、「うるさい！」と悟飯を殴り飛ばす。

悟飯は空中に投げ出され、ラッシュ攻撃を喰らい、遂にはボロボロになってしまった。

よくやった悟天！ と、褒めるベビー。

プチンツ！ 悟飯の堪忍袋の緒が切れ、彼は超サイヤ人2にパワーアップ。

が、そこに隙が生まれ、悟飯はベビーに体に乗っ取られてしまった。

悟飯ベビーはパンの方を向くと、いきなり襲い掛かった。

迫り来る悟飯ベビーを避けるパン。

その彼女に悟飯ベビーは再度殴り掛かる。

悟飯ベビーのパンチがパンの腹に決まって怯む。

「お前も俺のシモベにしてやる」

そう言って悟飯の体から抜け出すベビー。

その時、ベビーに向かって、一発の気弾が飛んで来た。

「ふんっ！ 貴様が生きていたとはな！」

そう言ったのはベジータである。

「ほお、ベジータか。お前の方から体を渡しに来るとは、手間が省けた」

「違うな。オレはお前を殺しに来たんだ！」

そう言ってベジータは超サイヤ人4に変身した。

「以前よりパワーアップした様だな。だが、俺様も少し強くなっている」

ベビーはそう言ってベジータに近付いて行く。

「ベジータ。その体、頂くぞ」

「その前に殺せば良いだけだ！」

そう言ってベジータは気弾を放つ。

しかし悟飯がベビーの前に出て盾となった。

ベジータの攻撃をまともに受けた悟飯は落下して地面に墜落した。  
「パパ!?」

パンは悟飯の下に駆け寄る。  
「ちよつとあんた! パパに何て事してくれたのよ!?!」

パンはベビーに向かって怒鳴った。

「主を守るのはシモベとして当然の事だ!」

その言葉にパンは怒りを露にすると、超サイヤ人に変身。ベビーに襲い掛かった。

「雌猿が超サイヤ人だと!?!」

ベビーは驚いた。それもその筈。

これまで超サイヤ人は男性にしかないとされていたのだから。

「波ーっ!」

ベビーの目の前で気弾を放つパン。ベビーは気弾を浴びると、落下して地面に墜落した。

「よくもベビー様を!」

悟天はパンに気弾を飛ばす。

が、パンはそれを受け止め、ベビーに投げ飛ばす。

しかし気が付いた悟飯が、気弾を放つてそれを相殺した。

「ベビー様に攻撃するなんて、パンは悪い子だなあ」

悟飯はそう言って、超化してパンを襲う。

「悟飯っ、その子猿は任せた!」

ベビーはそう言って、ベジータに襲い掛かる。

迫り来るベビーに対してベジータは気弾を連射。ベビーは無数の気弾で動きを封じられた。

「やめるベジータ」

と悟天がベジータの後ろに回り込んだ。

ベビーに気弾を連射するのに気を取られていたベジータは、「いつの間に!?!」と気弾を止めて後ろを振り返った。

(今だ!)

ベビーは液化してベジータに接近。彼の肉体に入り込んで同化をした。

(しまった!)

ベジータがそう思った時、彼の頬にベビーの顔が浮き出た。

「凄いよベジータ」

「きつ、貴様! 今すぐ出て行け!」

「ふふふ」

ベビーは不気味な笑い声をあげた。

「ベジータ、素直じゃないな。本当は嬉しいんだろ? この俺に再び肉体を使つて貰えるのが」

「最低な……野郎……だ……」

ベジータはそう残すと、意識を失ってしまった。

するとベジータベビー、ベジータの両手を見ながら、握ったり開いたりを繰り返した。

「手に入れたぞっ、ベジータの体を!」

ベジータの体を手に入れた嬉しさにベジータベビーはそう叫んだ。

「やりましたねっ、ベビー様!」

悟天はそう言う。

「次はあの子猿だ!」

そう言つて、ベジータベビーは悟飯の下に向かった。

「パパっ、もうやめて! 私、パパとは戦いたく無いよ!」

パンは悟飯にそう訴えるが、

「お前がお父さんの言う事を聞くなならな」

そう言つてパンに殴り掛かる悟飯。

パンは悟飯の一撃一撃をかわして殴り返した。

「それだけのパワーがあるんだ。お前もベビー様のシモべにして貰え」

「それは絶対に嫌よ!」

と悟飯を殴り飛ばす。

「言う事を訊かない子供は殺してしまえ!」

そう言ったのはベジータベビー。

「はい、ベビー様」

悟飯はそう返事をする、パンに襲い掛かった。

するとそこにキビト界王神が現れ、パンを連れて界王神界に瞬間移動をした。

「此処は?」

「界王神界ですよ、パンさん。悟空さんのお願いで、貴方をこの世界に連れて来ました」

その言葉にパンはこう言った。

「お祖父ちゃん生きてるの!?!」

「オラ死んでなんかいねえぞ?」

その声、その喋り方、孫 悟空そのものである。

「お祖父ちゃんっ、どうして!?!」

パンは振り向くとそう言った。

「あん時、爆発波使った後、直ぐに瞬間移動したんだ」

成る程、だからパンには爆発して消えた様に見えたのか。

「パンっ、早速でわりいんだけど、修行すつぞ! 今のオメエじゃ

どう頑張ったってベビーにゃ勝てねえ」

「お祖父ちゃんは?」

「今度ばかりはオラにも無理だ。だからよ、オメエが鍛<sup>きて</sup>えて、アイツを倒せるくれえの腕になつてくれよ」

「要するに、私が超サイヤ人4になれば良いつて訳ね?」

「解ってんじゃねえか。流石、オラの孫だ」

そう言つて悟空は、パンの頭を撫でた。

こうしてパンは、毎日悟空に稽古を付けられ、段々と強さを増して行った。

しかし、彼女が超サイヤ人4になれるのは、まだまだ先の話……である。

ドラゴンボールGT すぱぁーきんぐ!

第04話・生きていたベビー! (後書き)

ベビー様キター!

## 第05話：目指せ！超サイヤ人4

「パンっ、早速修行始めっぞ！ 先ずオメエの実力、オラに見せてくれ」

そう言っつて、超サイヤ人になる悟空。

「お祖父ちゃん？ 手抜いたら許さないわよ！」

そう言っつて、パンも超サイヤ人に変身。悟空より先に動いた。

（はええ！）

パンの速さに、悟空は一瞬焦った。

その瞬間、パンの一撃が腹に決まる。

「うえっ!?!」

「お祖父ちゃん、少し弱くなっただんじやない？」

「お、オラオメエの力、侮っていたみてえだ」

そう言っつて悟空は、気を溜め始めた。

すると体の回りに金色のオーラが発せられ、悟空は超サイヤ人2になった。

「オラこれで行くぞ！」

と、パンの背後に瞬間移動。

しかしパン、それに気付いて上に飛び上がった。

そして舞空連脚を悟空に浴びせた。

「オメエやるなあ。超サイヤ人2を超えてっぞ」

「あれ、分かった？ 実は私・・・」

と気を溜めるパン。

すると髪が伸び、眉毛の無い超サイヤ人3に変身する。

その容姿に悟空は、

「オメエ、3になれんか！」

流石の悟空も、それには驚いた様だ。

「どう？ 驚いたでしょ。実はね、お祖父ちゃんに内緒で夜々（よなよな）特訓してたのよ」

「じゃあオラも本気で行くかな!」

そう言つて超サイヤ人3に変身する悟空。

「行くぞ!」

悟空はパンの背後に瞬間移動し、肘パンチを繰り出す。

パンは素早く避け、殴り返す。

しかし悟空、片方の手で受け止め、もう片方の手で殴り飛ばす。

パンは勢い良く吹き飛んだ。

「やったわね!」

とパンは体制を整え、気弾を連射。悟空に浴びせる。

「波っ!」

悟空は超爆発波で気弾を防いだ。

「波っ!」

その瞬間、パンが光線を放った。

(マジかよ!?)

悟空は光線を受け止めた。

(くっ、強え!)

悟空は踏ん張るが、パンの光線の方が強く、彼は吹き飛ばされて

しまった。

「強えなオメエ。オレの負けだ」

そう言つて、元に戻る悟空。

「何言つてんのよ。まだ十分も経つて無いじゃない」

とパンも元の状態に戻る。

「パン。……次は地球行つて、超サイヤ人4になるんだ」

「それって、私がああ醜い大猿になるって事!? それだけは絶対に嫌!」

に嫌!」

「そう言つなつて。超サイヤ人4になるにや、あれしか無えんだか

らよ。大丈夫! オメエなら、大猿でも理性保てる筈だ!」

そう言い、パンに歩み寄る悟空。

「じゃ、オラに掴まつて」

それに応えて、パンは悟空に掴まる。

ドラゴンボールGT すぶあーきんぐ!

すると悟空、ベビーの気を探って、パン諸共瞬間移動をした。

「待っていたぞ、孫 悟空!」

そう言ったのはベジータベビーだ。どうやら、悟空が来るのを待っていたらしい。

「パン、オラが時間稼いでやつから、その間に大猿んなれ」

いきなり無理難題を押し付ける悟空。

パンは大猿になる事が出来るのか?

ドラゴンボールGT すぱぁーきんぐ!

第05話：目指せ！超サイヤ人4（後書き）

地球戻って来んのはや！

## 第06話：ベビー完全消滅

「オメエ、太陽に落ちて死んだと思ってたけど、生きてたんか」

「この俺が貴様ごときにやられる筈が無い」

そう言つて、超4ベジータの格好になるベジータベビー。

「ふっふっふ。この姿なら、貴様に負ける事は無い」

超4ベジータベビーはそう言つて、悟空に攻撃を始める。

「此処で貴様を殺して、全宇宙をツフル化してやる」

「オメエ、まだ諦めて無かつたんか!？」

「黙れ!」

と、ベジータベビーは協力なパンチを浴びせた。

そのパンチが悟空の腹に決まり、悟空は血を吐いた。

「どうした!? 超サイヤ人4にならないのか!? それとも、こ

の俺のシモベになりたいのか?」

「オラ、オメエの手下になるのだけは嫌だ!」

そう言つて超サイヤ人4になる悟空。

が、今のベジータベビーには、全く敵わなかった。

「どうした悟空?」

と、悟空を殴り飛ばすベジータベビー。

「うえああ!」

悟空は地面に墜落し、元に戻ってしまった。

「お祖父ちゃん!？」

パンは超サイヤ人3になってベジータベビーに飛び掛かった。

が、ベジータベビーの一撃で弾き飛ばされ、地面に墜落して元に

戻ってしまった。

「安心しろ! 悟空を殺したら直ぐに貴様も俺のシモベにしてやる

!」

そうパンに言つと、ベジータベビーは悟空に急接近をした。

瞬く間にベジータベビーは悟空に迫り、悟空の腹に強力な拳ミサ

イルの一撃が決まる。

(このままじゃ、お祖父ちゃんが殺されちゃう!)

そうは思っていて、一歩も動く力が残っていないパンには、どうする事も出来ない。

(あ、あれは……)

パンは空に浮かぶ、過去にベビーがドラゴンボールで作った惑星を見つめた。

(そう言えばお祖父ちゃん、あそこで超サイヤ人4になったんだっけ)

そう思い、過去の出来事を思い出すパン。

その時、パンの体に異変が現れた。

心臓の鼓動が高鳴り、服が破け、全身に毛が生え、体が巨大化を始める。

そしてパンは、金の猿へ変身を遂げた。

大猿パンは立ち上がり、「ぐわあああ!」と両腕を上にあげて叫んだ。

「あれは猿!?!」

と、驚くベジータベビー。

「ば、馬鹿な……。猿になるにはブルーツ波を浴びなくてはならない。まさか!?!」

と、以前に作った惑星を見上げるベジータベビー。

「あの星からブルーツ波が出てるとでも言うのか!?!」

と、大猿パンの方を振り向くベジータベビー。

すると目の前に、大猿パンが立っていた。

「大猿になったからって、オレに敵うと思うなよ!」  
ベジータベビーそう言って、ファイナルシャインアタックを放った。

しかし当たりはしたものの、全く効いてはいなかった。

焦ったベジータベビーは、手下の悟飯、悟天、トランクス、ブラを呼び付け、大猿パンの動きを封じる様命じた。

4人はベジータベビーの命令に従い、大猿パンに飛び掛かる。が、4人共、大猿パンにやられ、気絶をってしまった。

「ベビー！ あんたって、手下がないと何にも出来ないの!？」

大猿パンはそう言って、ベジータベビーを叩き付けた。

「うわ！」

地面に墜落するベジータベビー。そこへ大猿パンの拳が飛んで来る。

「クソッ！」

ベジータベビーは間一髪の所で避けた。

「全く、動きにくい体ね！」

大猿パンはそう言うと、金色の光に包まれ、体が小さくなって行き、オレンジのバンドナに黒の長髪、目の縁が赤く上半身に赤い体毛、その上から緑のTシャツに白の長ズボン、腰に鎖と何故か巨乳の超サイヤ人4に、姿を変えた。

「ベビーっ、覚悟しなさい！」

と、超4パンは高速で移動し、ベジータベビーの腹に拳を叩き込んだ。

「がはっ！」

血を吐くベジータベビー。

「全然手応え無いわね？」

パンはそう言って、拳を引き、ベジータベビーを蹴り飛ばした。吹き飛ぶベジータベビー。

パンはそのベジータベビーに近付き、両手を組んで叩き付けた。地面に墜落するベジータベビー。

「これで終りよ！」

そう言って、かめはめ波を構えるパン。

「10倍、かめはめ波はあめえ、波あーっ！」

と、10倍かめはめ波を放つパン。

その光線はベジータベビーに当たり、それを中心に巨大なクレイターを作り上げた。

「くっ！」

ベビーはベジータから飛び出し、「貴様に乗り移ってやる！」とパンに迫った。

しかしパン、瞬時に避け、ベビーが元に戻った瞬間に、気弾を放った。

無数の気弾を浴びたベビーは爆発して飛び散った。

その破片がパンに付着。徐々にパンに入り込んで行く。

(体が動かない!?)

そう思った時、頬にベビーの顔が浮かんだ。

「子猿よ、お前の体は貰った」

そう言っただけでパンの体を操り、悟空の下へ降りるパンベビー。

「やったなあ、パン！」

と、悟空がパンを持ち上げようとした時、パンベビーはその手を振り払い、悟空の腹にパンチを浴びせた。

悟空は血を吐きながらこう言った。

「何すんだ、パン!?!」

「オレはパンじゃない」

そう口から出たのは、パンの声では無く、ベビーのそれだった。

「オメエ、パンに!?!」

「隙だらけだったもんでな」

そう言っただけで、気合砲で悟空を吹っ飛ばした。

悟空は宙に舞うと、パンベビーに、地面に叩き付けられた。

「死ねっ、孫 悟空！」

と、パンベビーはわざとパンの声で言い、手を悟空に向けて気弾を作り出した。

が、パンが力を振り絞って、気弾を後ろへ放り投げた。

「あんななんかに、あんななんかに、私の体を使われてたまるもんですか！」

パンはそう叫び、上へ飛び上がると、気でベビーを体内から外へ追い出した。

ベビーは慌てて逃げ出した。

が、パンが先回りし、ベビーにラッシュを繰り出した。

「今度こそ終りよ!」

パンはそう言ってベビーに光線を浴びせた。

「うわあああああ!」

ベビーは悲鳴をあげ、破片一つ残らず消滅した。

ベビーを倒したパンは、皆を元に戻す為、神の神殿に超神水を取り向かった。

こうして、操られていた皆は元に帰り、地球は平和を取り戻した。

第06話：ペピー完全消滅（後書き）

ハジケてるし、殆んど無茶苦茶だ。

ドラゴンボールGT すぱぁーきんぐ！

# 広告募集中

小説関連広告に最適です。  
出版社や印刷会社はもちろん、  
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1159b/>

---

ドラゴンボールGT すぶあーきんぐ!

2008年11月7日06時56分発行